網膜芽細胞腫全国登録票

1)	登録番号	(事務局で	記入しま	(す)						
2)	登録年月日	(事務局で	記入しま	(す)	(西暦)		生	月		
3)	~5) コード	/	医制度研修加	— 施設		た西暦年の) 各医療機関の患者通じ	 関での登録年 _番号	<u>.</u>
6)	性別		男		□女					
7)	生年月日	(西暦)		年	月	目				
8)	在胎週数		週							
9)	出生時体重		g							
10)	既往歴									
11)	患側	□右眼]左眼	□両	i眼				
家族	歴									
1)	父 生	年月日	(西暦)		年	月	日			
	母 生	年月日	(西暦)_		年	月	日			
2)	家族歴									
	網膜	芽細胞腫	□無	□有						
	他の	悪性腫瘍	□無	□有	(腫瘍名_)	
	遺伝	疾患	□無	□有	(疾患名_)	
	先天	異常	□無	□有	(疾患名_)	
	血族	結婚	□無	□有						
3)	家系図 (な	るべく詳しく	、性、年的	龄(網膜	芽細胞腫発生	生時)、発症	あ有無	、患側、を	記入して下	でさい。)
		0				記載	裁例 ■ 両眼	性(男)		
			- O			,	_	性(女、左眼) 者(患者本人、!	男、右眼〉	

母 体

1) 妊娠歴							
X線照射	寸 □無	□有(□妊娠前	□妊娠後))		
疾病	□無	□有(疾患名)
薬物服用	□無	□有(薬品名)
飲酒	□無	□有					
喫煙	□無	□有					
その他					<u></u>		
2) 分娩歴	□正常	□異常	(病態)
患児の身体的特	徴						
1) 精神発達・	全身異常	□無 [□有(疾患	是名)
2) 染色体異常	,	□施行→	せず 口無	無 □有(身	異常所見)
3) 遺伝子異常	>	□施行→	せず 🛘	無 口有			
4) 血液型		型	(Rh)				
現病歴							
1) 初めて異常	に気づいた	诗	(西暦)	年	月	日	
2) 初診(必ず	記入してく	ださい)	(西暦)	年	月	日	
3) 家族の気づ	いた初発症	伏	□右眼	□左眼	□両眼		
(:	項目は重複す	可)					
□白色	色瞳孔(瞳孔	領が白い) □ <i>š</i>	苗目(夜、	目が光る)		
□斜視		低視力	□糹	吉膜充血	□角膊	異常	
□眼瞼	∫腫脹 □	眼球突出		その他()
4) 受診前の治	游 □無	□有	(施設名_)
	□眼	球摘出	□右眼	□左眼	□両眼		
			(西)	香)	_年月		_目)
	□保	存療法					
	ロそ	の他 _					

臨床所見	右	眼
------	---	---

左 眼

1) 眼位

____mmHg 2) 眼圧

____mmHg

3) 角膜

4) 前房

5) 瞳孔

6) 虹彩

7) 水晶体 ______

8) 硝子体 _____

9) 眼底 黄斑 □正常 □異常 黄斑 □正常 □異常

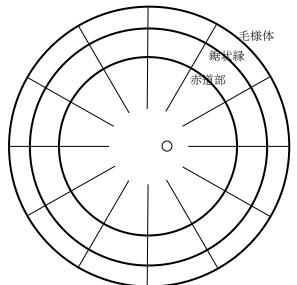
> 乳頭 □正常 □異常 乳頭 □正常 □異常

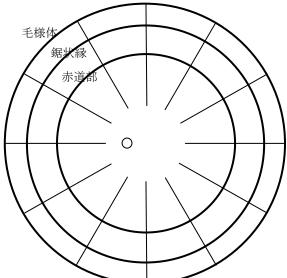
腫瘍数 ______個 腫瘍数 ______個

10) 眼底図

右 眼

左 眼





11) 分類

11)	JJ //							
Ree	ese-Ell	lsworth	. 分類	右	眼 Gro	up	左	眼 Group
国	際	分 類		右	眼 Gro	.p	左	眼 Group
	「参考」]						
	Reese	-Ellswor	th 分類					
	Grou	_	腫瘍は孤立性、					
	Grou	p II A: II B: p III A: III B:	腫瘍は多発性で、 腫瘍は孤立性、 腫瘍は多発性、 赤道部より前方 腫瘍は孤立性、 腫瘍は多発性で	4~10DD であ 4~10DD であ にある全腫瘍 10DD より大き	り、赤道部 り、赤道よ く、赤道よ	または赤道より行 の後方にある り後方にある		部または赤道より後方にあっる
	GIOG	-	鋸状縁の前方ま			ω <i>)</i> · ω		
	Grou		腫瘍は大型であ			及している		
		V B:	硝子体播種を認	める				
	国際公	類						
	* Grou * * Grou * * Grou * * * Grou * * * * * * * * * * * * * * *	,腫腫p G腫p孤現微網p 大現びびp 腫腫腫血出傷瘍 B Oupか こしまな下 ままんん ががが新にはは A ら:てた硝播:たた性性:水硝び生よ	存在するに 存在する 腫瘍 にる にる にる は体種 にる を を を を はいままは に、型 を に、型 を を に、型 を を を に、、型 を を を に、、型 を を を を を に、、型 を を を を に、、型 を を に、、型 を を を に、、型 を を に、、型 を を に、、型 を を に、、型 を を に、し、に、と を を に、し、に、と に、こ。に、た に、こ。に、こ。に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、	は高さなければ、 (全 で 神経 は) は (全 で 神経 は) は で る に で で で で で で で で で で で で で で で で で	の X X X X X X X X X X X X X	mm以下で、網 は.5mmより離れ 复数でも) えを認め、網膜下 網膜下播種また うなする人性腫瘍 は、播種または 調整ははは は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	朋族に限 た が播種は た は は イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ	局する に位置する 伴わない - 体播種がわずかにみられる 召えない ~全体に及ぶ
12)	眼窩		□正常	□異常	(所見)
13)	リンク	パ節	耳前	□正常	□異常			_
			顎下 頚部	□正常 □正常	□異常 □異常			
14)	頭部			□正常	□異常	(所見)
15)	その作	也の臓器	5	□正常	□異常	(所見)

16) 臨床分類

[参考]

TNM 悪性腫瘍の分類

分類規約

両眼性症例では、両眼はそれぞれ別に分類される。本分類は腫瘍の完全な自然治癒には適用されない。摘出された 眼球は、病変の組織学的確証が必要である

以下は T、N、M 各カテゴリーの評価法である:

Tカテゴリー 身体的検査と画像診断

Nカテゴリー 身体的検査

Mカテゴリー 身体的検査と画像診断(骨髄と脳脊髄液の検査により診断精度の向上が期待できる)

所属リンパ説

所属リンパ節は耳前リンパ節、顎下リンパ節、頸部リンパ節である

TNM 臨床分類

T- 原発腫瘍

- TX 原発腫瘍の評価が不可能
- TO 原発腫瘍を認めない
- T1 腫瘍は眼球体積の 2/3 以下で硝子体や網膜下への播種を認めない腫瘍
 - T1a どちらの眼球についても、腫瘍の最大径が 3mm 以下であるか、視神経または中心窩から 1.5mm 以内に 腫瘍を認めない
 - T1b 少なくとも1つの腫瘍の最大径が3mmをこえるか、視神経または中心窩から1.5mm以内にあるが、腫瘍の基底から5mmをこえる網膜剥離や網膜下液を認めない
 - T1c 少なくとも1つの腫瘍サイズが3mmをこえるか、視神経または中心窩から1.5mm以内にあり腫瘍の基底から5mmをこえる網膜剥離や網膜下液を認める
- T2 眼球体積の 2/3 以下で硝子体播種または網膜剥離を伴う網膜下播種を伴う腫瘍
 - T2a 腫瘍細胞の微細な播種を硝子体および/または網膜下に限局的に認めるが、腫瘍細胞の大きな塊もしくは「雪玉状」播種は認めない
 - T2b 腫瘍細胞の広範性凝塊もしくは「雪玉状」と定義される巨大な凝塊の播種を硝子体および/または網膜下に 認める
- T3 重篤な眼球内腫瘍
 - T3a 眼球の2/3をこえる腫瘍
 - T3b 新生血管または隅角閉塞緑内障、前眼部に浸潤する腫瘍、前房出血、硝子体出血、眼窩蜂窩巣炎など 腫瘍に関連する1つ以上の合併症を認める
- T4 眼球外に浸潤する腫瘍
 - T4a 視神経への浸潤
 - T4b 眼窩への浸潤
 - T4c 視交叉までの頭蓋内進展
 - T4d 視交叉をこえる頭蓋内進展

N - 所属リンパ節

- NX 所属リンパ節転移の評価が不可能
- N0 所属リンパ節転移なし
- N1 所属リンパ節転移あり

M - 遠隔転移

- M0 遠隔転移なし
- M1 遠隔転移あり

補助	診断の所見								
1)	レントゲン検査	重.							
2)	CT検査	-							
3)	MRI検査								
4)	超音波検査	-							
5)	アイソトープを	食査							
6)	生化学的検査	-							
7)	その他	-							
病理 1)	所見 最大の腫瘍のフ		右	眼		左	眼		
-/	100		つ体利	責 3/4 以上		□眼球の体積	§ 3/4 以	上	
		□3/4 未	:満~	1/2 以上		□3/4 未満~	1/2 以上	<u>.</u>	
		□1/2 未 □1/4 未		1/4 以上		□1/2 未満~ □1/4 未満	1/4 以上	<u>.</u>	
2)	増殖形態	Exophy	tum	□Endophytum		□Exophytum	□Endo	phytum	
		☐Mixed		Diffuse		☐Mixed	□Diffu	ise	
3)	組織分類	□G1(高 ₂	分化)	□G2(中等度分化)		□ G1 (高分化)	\Box G2(中等度分化》)
		□G3(低 ²	分化)	□ G 4(未分化)		□G3(低分化)	\Box G4(未分化)	
		Rosette Fleurette	;	□無 □有 □無 □有		Rosette Fleurette	□無	□有 □有	
4)	多巣性発生			□無 □有			□無	□有	
5)	虹彩ルベオージ	ンス		□無 □有			□無	□有	
6)	腫瘍の浸潤	-	右	退		左	眼		
		□無	□有			□無 □有			
		□視神	経乳	頭		□視神経乳頭	頁		
		□乳頭	~篩	状板		□乳頭~篩∜	犬板		
		□篩状	板~	視神経断端		□篩状板~褂	見神経幽	沂端	
		□視神	経断	端		□視神経断端	岩		
		□脈絡	膜			□脈絡膜			
		□虹彩	毛様	体		□虹彩毛様体	\$		
		□強膜				□強膜			
		□眼窩				□眼窩			
		□その	他 ()	□その他()

7) 組織所見について、artifact 混入の疑い

右 眼

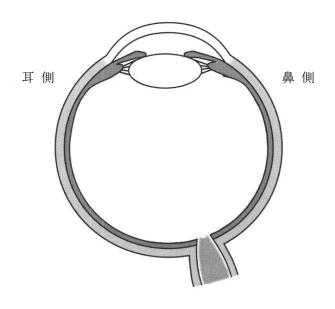
□無 □有

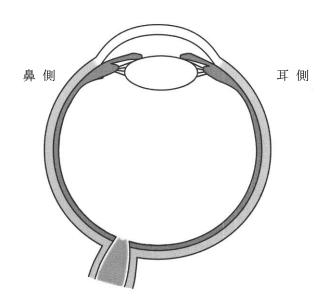
左 眼□無 □有

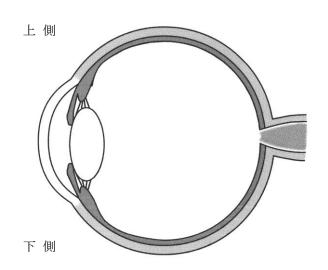
8) 眼球図

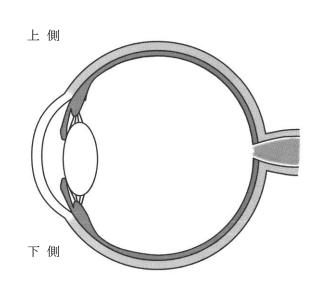
右 眼

左 眼









9) その他特記すべき所見

右 眼

左 眼

10) TNM病理学分類

右	眼	рТ	pN	pM	左	眼	pT	pN	pM	

[参考]

TNM病理学分類

pT - 原発腫瘍

pTX 原発腫瘍の評価が不可能

pT0 原発腫瘍を認めない

pT1 眼球内に限局し、視神経または脈絡膜への浸潤を伴わない

pT2 視神経および/または脈絡膜への微小浸潤

pT 2a 視神経乳頭部の表面に浸潤するが、篩状板をこえて進展しない または限局する脈絡膜浸潤を示す

pT 2b 視神経乳頭部の表面に浸潤するが、篩状板をこえて進展せず、かつ限局する脈絡膜浸潤を示す

pT3 視神経および/または脈絡膜への著しい浸潤

pT3a 篩状板をこえるが視神経断端に浸潤していない、または脈絡膜への著しい浸潤を示す

pT 3b 篩状板をこえるが視神経断端に浸潤せず、かつ脈絡膜への著しい浸潤を示す

pT4 視神経断端に浸潤する。またはそれ以外に眼球外への進展を示す

pT 4a 視神経断端に浸潤するが、眼球外への進展はない

pT4b 視神経断端に浸潤し、眼球外への進展が認められる

pN - 所属リンパ節

pNX 所属リンパ節転移の評価が不可能

pN0 所属リンパ節転移なし

pN 1 所属リンパ節転移あり(耳介前部、頸部)

pN2 遠隔リンパ節転移あり

pM - 遠隔転移

pM 0 遠隔転移なし

pM1 遠隔転移あり

pM 1a 中枢神経系以外の部位への単一性転移

pM 1b 中枢神経系以外の部位への多発性転移

pM 1c 中枢神経系への転移

pM 1d 軟髄膜および/または脳脊髄液への浸潤のない非連続性腫瘍塊

pM 1e 軟髄膜および/または脳脊髄液への浸潤

□その他

(総線量 _____ Gy)

□その他

(総線量 _____ Gy)

□化学療法	
種類	
薬品名(商品名)	
□イダルビシン(ィダマイシン)	
□イリノテカン (トポテシン・カンプト)	
□シクロホスファミド (エンドキサン)	
	□ノギテカン (トポテカン)
□ドキソルビシン(アドリアマイシン、アドリア	マシン)
□ピラルビシン (テラルビシン、ピノルビン)	
□ビンクリスチン(オンコビン)	□メルファラン (アルケラン)
\square V P $ 1$ 6 (エトポシド) (ラステット・ペプシ	· ド)
□その他	
投与法 □経口 □皮下・筋	
□動注 (□総頚動脈 □	
	□硝子体腔内注入 □結膜下注入
投与総量	
投与期間 (西曆)年月日開始	· ~ (西曆) 年 月 日終了
	<u> </u>
□免疫療法	
□温熱療法	
□放射線療法併用	□放射線療法併用
□化学療法併用	□化学療法併用
□その他	
6) 保存療法後の追加治療	
0) 体情原位及少更加自原	
□眼球摘出 □無 □有	□無 □有
(西暦)年月日	(西暦) 年 月 日
義眼台挿入 □無 □有 タイプ	
□眼窩内容除去 (西曆)年年月	日 (西暦)年月日
□その他	

治療	結果	判定年月日	(西暦)	年_	月	日		
1)	□角結膜® □緑内障	右 章害 □白内障 □網膜積 重、変性 [章 消子体出		□緑内		□網店	内障 莫硝子体出血 □その他
2)	右目	測定年月日 艮(矯正 艮(矯正	_) (屈扌	f				
3)	[右 □腫瘍消失 □腫瘍残存						瘍瘢痕化 然治癒
4)	腫瘍再発	□眼底	□眼窩	1	□眼底	□眼	窩	
5)	眼窩の状態							
6)		□リンパ節 □骨転移 □所属リン		□その他の	臓器転移			
		□中枢神経				〕髄膜髄	液播種	
7)	重複腫瘍	□無 □	有		部位			
		月日 (西暦)						
8)		生存 □死亡 □原病 解剖 □有	死	□不明			月 <u></u>	<u></u> 目

[登録記入についてのお願い]

- 1) 本登録事業は、日本における網膜芽細胞腫の実態を明らかにし、その診断治療法の 進歩と患者の福祉に貢献することを目的とします。 「財団法人日本眼科学会」の 事業として網膜芽細胞腫会国登録委員会が実施します。
- 2) 登録は、施設においてインフォームド・コンセントを得てご記入下さい。
- 3) 本登録は、学術的見地から実施されるものであり、患者およびその家族に関する プライバシーは、「財団法人日本眼科学会」庶務担当理事の責任において守ります。
- 4) 該当する□にチェック (✔) を、下線部には各々ご記入下さい。また、各項目 すべてについてご記入いただけない場合は、判明している項目だけご記入下さい。